

# お客様とともに環境を守る

宝酒造では、事業活動における環境への配慮はもちろんのこと、お客様にお届けする商品のトータルな環境負荷低減のため、容器の軽量化や、容器を使わない販売方法などを採用した、エコプロダクツの開発を行っています。



## 消費後の環境負荷削減をめざして

環境への負荷を減らすためには、商品のライフサイクルを通じた取り組みを行う必要があります。当社の商品は、ガラスびんやペットボトル、缶、紙パックなどさまざまな容器に入れてお客様にお届けしていますが、消費された後にはその容器は廃棄物になります。宝酒造ではその環境

影響を強く認識し、①はかり売りの実施 ②容器包装の軽量化 ③再使用できるリターナブルびんの促進 ④リサイクルしやすい容器設計など、お取引先やお客様と協力しながら、環境負荷削減に努めています。

### 焼酎のはかり売り

現代は効率を優先して人手や手間を省くために、資源やエネルギーを大量に消費する時代といえます。「はかり売り」はその逆で、人手や手間をかけて資源やエネルギーを節約しようという発想から生まれた販売システムです。

宝酒造では3R(リデュース、リユース、リサイクル)をさらに進めた「リフューズ(ゴミになる不要なものを買うことを避ける)」への取り組みとして、1998年に株式会社

ジャックル浦島屋様(東京都八王子市)と共同で「焼酎のはかり売り」を開始しました。1キロリットルや200リットルの専用タンクを工場から販売店へ直送し、店頭でお客様が持参した容器に必要な量だけ詰めて販売します。

現在は、全国で220店舗にご協力いただき、2005年3月までに2.7リットルペットボトル約281万本、段ボール約47万枚を節約することができました。



#### 【担当者の声】

#### 販売チャネルをさらに広げていきたい

首都圏支社 販売部 販売第一課 チーフ  
青木 努



「はかり売り」は、お客様・販売店様と宝酒造が一体となり、容器包装廃棄物ゼロをめざす取り組みのひとつで、皆さまのご理解なくしては成り立ちません。このシステムを、もっと全国の方々にご利用いただくためには、店頭で今よりも簡単にタンクを設置できる工夫を凝らすなどまだまだ見直すべき点があり、日々改善に向けて努力をしています。

#### 【お取扱店の声】

#### お客様と会話がはずんでリピーターが増えました

株式会社 ジャックル浦島屋  
川井 誠様



「ペットボトルをつぶして捨てるのが大変」というお客様の声きっかけで、昔の酒屋さんがやっていた「はかり売り」を復活させました。日常的に飲む焼酎を、必要な分だけ安価で購入でき、しかも環境にもよいことをしているというわけで、徐々に口コミで広がって幅広いお客様にお喜びいただいています。酒類販売はどうしても価格競争に走りがちですが、「はかり売り」を行うことでお客様とフェイストゥフェイスで接するため、いろんなお酒の楽しみ方を提案することができ、お店のファンづくりにもつながっています。

## 宝酒造の主なエコプロダクツ

### リターナブルびん

リターナブルは資源の節約や廃棄物の削減という観点から、循環型社会に適したシステムであると考えます。宝酒造では清酒、焼酎、みりん等で使用している一升びんの他に1994年から宝焼酎「純」、「純」レジェンド720mlびんもリターナブルに切り替えました。また、2003年には日本ガラスびん協会と日本酒造組合中央会が共同開発した「300ml統一リターナブルびん」を採用した特撰松竹梅<特別純米>300mlを発売しました。



720mlびん再使用本数の推移 → 2

### エコフロストボトル

2001年から焼酎「ZIPANG」のフロスティボトル（表面がすりガラス状のボトル）には、環境にやさしい特殊なフロスト加工を採用しています。従来のように化学薬品を使用せず、セラミック製の研磨剤を吹きつけてすりガラス状に加工しています。また、製造プロセスで発生するガラスや研磨剤の粉などはガラス原料としてリサイクルすることができます。



### エコペット

宝酒造は、1998年に業界で初めて「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に対応したペットボトルを開発しました。キャップを樹脂に、2.7リットルボトルの取っ手は外して容器の形状をグリップ状にし、4リットルボトルは取っ手をペットボトルのリサイクル樹脂に改良し、ラベルははがしやすく工夫しました。また、本みりんや料理酒の中栓キャップは外しやすいよう、1999年「はずせるキャップ」を採用。お客様の分別作業や再資源化が容易になりました。



### エコロジーボトル

ワインや輸入焼酎などに多く見られる色つきガラスびん（透明や茶色を除く）はガラス原料へのリサイクルが容易ではありません。宝酒造では、この問題への対策として、さまざまな色のカレット（使用済み色つきガラスびんを砕いたもの）を90%以上使用した「エコロジーボトル」を、2000年に業界で初めて清酒の容器として採用しました。



## 「タカラ有機本みりん」が世界の食品で初めて「EPDタイプⅢ環境ラベル」を取得



<タカラ有機本みりん 500ml>

- 登録番号:S-P-00042
- 登録日:2003.2.19
- 改訂日:2005.1.11  
容器包装変更による改訂
- 審査登録機関:  
(財)日本ガス機器検査協会  
環境製品評価部

2000年、宝酒造は本みりんのトップブランドとして、世界のオーガニックのスタンダードであるOCIAの認証を取得した「タカラ有機本みりん」を発売しました。ラベルには非木材紙(ケナフ紙)を使用し、本体のびんとプラスチックキャップを分別しやすく設計した「はずせるキャップ」を採用しています。また2003年には従

来より約100g軽い“超軽量ガラスびん”を採用し、2004年にエコマークを取得するなどの改良を加えてリニューアルしました。また食品で初めてEPDのタイプⅢ環境ラベルも取得し、お客様に環境にやさしい商品をお選びいただく際の指標となっています。

※OCIA (Organic Crop Improvement Association International:有機農産物改良協会) …アメリカの国際的な民間有機認証機関。

※EPD (Environmental Product Declaration:環境製品宣言認証) …スウェーデン環境管理評議会による国際的な認証で、日本では(財)日本ガス機器検査協会が認証機関として認定されている。タイプⅢの環境ラベルは、原料の生産からゴミとして廃棄されるまで、LCA (ライフサイクルアセスメント)に基づいて環境データを公表することが義務づけられ、環境配慮型商品としての判断は消費者に委ねられる。